第42号
令和8年3月

たかつハートリレー 取材レポート



「0歳からはじまる、絵本の時間」
絵本の力で親子の居場所をつくる
「コロコロたまご」

取材先
代表 吉岡 久美さん
山崎 安子さん
平野 ・・さん

0歳児の読み聞かせが、なかった



吉岡さんが『もこ　もこもこ』を開くと、ずらりと並んだ赤ちゃんたちの目が一斉に絵本へと吸い寄せられていきました。高津図書館を拠点に活動する読み聞かせボランティア「コロコロたまご」のおはなし会の一場面です。

高津図書館は川崎市内でも児童サービスに力を入れ、児童書の蔵書数は市内随一。幼児向け・小学生向けの読み聞かせ会も充実していましたが、0歳児向けだけがありませんでした。幼稚園での30年の経験を経て図書館に勤めた吉岡さんは、読み聞かせが子どもの育ちだけでなく母親の居場所づくりにもなると感じ、在職中から独自に0歳児向けの読み聞かせを始めていました。退職を機に、自らボランティアとして活動を引き継ぐことを決意。2018年4月、「コロコロたまご」が生まれました。

図書館という場所が持つ特別な安心感を、吉岡さんは大切にしています。居場所を探しているお母さんがここで友人をつくり、他の活動へとつながっていくのが理想だと話します。0歳児への読み聞かせは、静かに読むだけでは届きません。歌い、手遊びを交え、声のトーンやテンポを変えながらリズミカルに届ける。そこには絵の力と、言葉のリズムの力があると吉岡さんは確信しています。選書で心がけるのは「ベストセラーよりロングセラー」。「良い本なら、子どもは繰り返し喜ぶ。それをお母さんたちに伝えています」

絵本がつなぐ、親子と地域のつながり



月齢の近い赤ちゃんたちがはいはいしながら輪になって何かを伝え合おうとする、メンバーが「赤ちゃん会議」と呼ぶ光景です。保育園に入る前の0歳児にとって、同じ月齢の子と出会える貴重な場になっています。

参加者からは「他の子の様子を見て、ああうちと同じだ、こんなものなんだと思って安心して帰れます」という声が寄せられています。「読み聞かせに参加してから子どもが絵本にはまり、最後のページになると泣き出すほど。でも最初から読み直すとご機嫌になるんです」と語るお母さんも。読み聞かせの後に手遊びやわらべうたで一緒に遊ぶ時間も、親子のふれあいにつながっています。

高津図書館での活動に加え、保健師の声がけをきっかけに溝口第6町内会館でも月1回のおはなし会を開催。畳敷きのアットホームな空間で、保健師や栄養士が顔を出すこともあり、育児の相談もできる場になっています。川崎市立図書館ならではの布の絵本も取り入れ、読んだ後に子どもが触れて遊べる工夫もしています。

支える側のメンバーにとっても大切な時間です。サポート担当の山崎さんは「赤ちゃんの笑顔を見たら、嫌なことがあっても忘れられる。それが続けている一番の原動力です」と話します。お母さんでもお父さんでも、おじいちゃんおばあちゃんでも、どなたと一緒でも大歓迎。赤ちゃんと一緒に、絵本の時間をのぞいてみませんか。

たかつハートリレーとは、小地域やグループ単位で行っている福祉活動について現地取材を行い、写真やインタビュー記事とともに掲載していきます。取材された団体が次の団体を取材するリレー形式を取る事で、取材の場が区民の交流の機会にもつながることを目指します。

ハートリレーHP

発行・問い合わせ　高津区役所地域みまもり支援センター地域ケア推進課　TEL：044-861-3313